

地域・海外リサーチセンター：ふくしま広野未来創造リサーチセンター	
題目	「ふくしま浜通り社会イノベーション・イニシアティブ (SI 構想)」の具体化と社会実装
著者	李洸昊、永井祐二、松岡俊二

概要

本研究は、2050年に向けた地域変革のトリガーとなり得る取り組みとして「ふくしま浜通り社会イノベーション・イニシアティブ (SI 構想)」の具体化とアクションを通じ、浜通り地域が共通のテーマとして取り組む事ができ、さらに復興の象徴となり得るものを見出すことを目的としている。地域社会の持続可能性研究における社会的ソフトづくり (熟議の場構築) と浜通り地域の広域連携のネットワークを構築することを目指す。

本年度の研究開発、成果

2050年に向けた地域変革のトリガーとなり得る取り組みとしての「ふくしま浜通り社会イノベーション・イニシアティブ (SI 構想)」は、浜通り地域が共通のテーマとして取り組む事ができ、さらに復興の象徴となり得るものであると定義されており、次の3つの柱と構成されている。今年度は、SI構想の具体化に向けた、様々な検討や実践活動を行ってきた。3つの柱は、①1F事故遺産・記憶遺産としての利活用 (1Fヘリテージ構想) : 1F廃炉の先研究会、②地域アートの展開による地域の新たな魅力や価値創造 : 文化育成WG、③交流人口の拡大と地域循環のための広域地域経営組織 (広域DMO) の形成である。

基本的に、今年度は①、②にそれぞれ「1F廃炉の先研究会」「ふくしま浜通り文化育成と発信事業WG」を実施、これらを地域多様主体参加で議論する場として、ふくしま学 (楽) 会を2回実施した。また、これらの取り組みを進めるための地域協力者との会議の場である運営委員会を定期的で開催した。



上記の第1、第2の柱を中心とした議論や地域対話から、第3の柱は単なる地域DMO組織では無く、積極的な社会科学的な学関与を継続的に実施していく研究拠点とする構想を結論づけた。ビジョンとしては、福島県の教訓を未来世代へ発展的に継承し、福島県浜通り地域を新たな文化創造と文化発信の地域として再生するための『国際芸術・学術 (Arts & Sciences) 拠点構想』とし、新たなSI構想として取りまとめた。第5回ふくしま学 (楽) 会では、これらを提案し、議論をすることができた。今後は、このSI構想のさらなる具体化を本事業の成果目標 (ゴール) として明確にし、事業を進める。



次年度の研究計画

2020年度は、2019年度の具体的なアクションをさらに発展・拡大させ、研究会・ワーキンググループ間の整合と連携を検討する。特に、第5回ふくしま学 (楽) 会で新たに提案した「ふくしま浜通り社会イノベーション・イニシアティブ (SI 構想)」の第3の柱である国際芸術・学術 (Arts & Sciences) 拠点構想の、さらなる具体化を本事業の成果目標 (ゴール) として明確にし、事業を進める。また、実施に際しては、これらのリサーチに、教育の側面の効果や、浜通りの連携のムーブメントに常に配慮していく。

本研究が目指す地域の多様なアクターによる多世代交流の場を通じて、その地域のニーズに適した事業の企画から実行、モニタリングまで行われる持続可能で、中長期的なPDCAサイクルが福島県浜通り地域に波及できるように、広域ネットワーク構築に取り組む予定である。